

ミライの文化を創り出す、次世代の若者たちの活動を研究する「ミライのBUNKA研究室」

ミライのBUNKA研究室

八王子コミュニティオペラ『椿姫』 大学生による衣裳制作の現場に迫る!



八王子コミュニティオペラとは?

プロ・アマ・学生・財団が一体となって舞台と制作のスタッフを務め、多くの方々のご協力のもとで創造する市民オペラです。活動を一時休止していましたが、5年ぶりに2026年の公演に向けて再始動しました!

過去のマガジンVol.5で、八王子コミュニティオペラを詳しく紹介した記事もぜひご覧ください!



地域の学生たちとオペラ制作!

2025年～2026年に取り組む演目は、19世紀半ばのパリを舞台にした、ヴェルディ作『椿姫』。主人公のヴィオレッタのドレスは、東京家政学院大学の被服構成学研究室の活動によるもの。学生たちが演出プランに沿ってデザイン画を作成し、演出家へプレゼンテーションしました。

ドレスはすみれ色のグラデーションカラーの生地に花を散りばめてはいかがでしょう。



19世紀半ばの裾が広がっているクリノリンスタイルが素敵ですね。

今回の制作した衣裳は、2025年3月16日(日)「八王子コミュニティオペラ2025『椿姫』ハイライトコンサート」にて披露されます! 公演の詳細情報は、本誌8ページをご覧ください。



コガスゴイ 2014年から八王子コミュニティオペラに参加する富田先生は、これまでに衣裳約50着をゼミで制作。体格に合わせたフィッティングや役柄や歴史背景の研究は、学生にとって貴重な経験になると話されていました。いい作品を追求してプロ、アマの立場を超えて作り上げるステージがスゴイ!

プレゼンターにインタビューしました!



現代生活学部 生活デザイン科 4年生
馬場美帆さん

●ドレスのテーマを教えてください
テーマの「花」からイメージを膨らませ、主人公の名前であるすみれ色をメインに、スタイルは『椿姫』初演の1853年に流行していた形を意識しています。ドレスづくりは初めてなので不安もありますが、形になっていく楽しさを感じています。



現代生活学部 生活デザイン科 被服構成学研究室 富田弘美教授

●学生にアドバイスをするときに心がけていることは?

学生にとって舞台衣裳を学ぶ機会はそうそうありません。この制作では、日常の衣服とは異なる様々なテクニックを学ぶことができます。また、最後まで仕上げるには失敗しても前向きに取り組む姿勢が必要で、一つひとつ楽しみながらつくりたいですね。



馬場美帆さんが提案したドレスのデザイン画

演出家からのコメント



全国各地でオペラの演出・構成を多数手がける演出家 角直之さん

●八王子コミュニティオペラならではの特徴はありますか?

初参加の方から長年参加されている方まで、幅広く関わっているオープンなコミュニティであり、常に新しい風が吹いています。参加者の多様な意見や感じたことを聞いて、自身の演出にも刺激をもらいながら、公演に向けて方向性をそろえていきたいですね。



人形劇

「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」

2月9日(日)

南大沢文化会館 主ホール 14:00開演(13:30開場)



あらすじ

クラスの音読コンクールに出場が決まったユリカと慶司は、それぞれ不満でいっぱい! そこに大泥棒になりたいたい男・江城が登場。不思議な駄菓子屋「銭天堂」の駄菓子に巡り合った3人の願いとは...

ストーリーと躍動する表現を味わう舞台演劇

大人気の児童文学が人形劇に登場! 演じるのは『ひょっこりひょうたん島』なども手掛ける人形劇団「劇団ひとみ座」です。作品に込められた思いを団員のおふたりに伺いました。



代表: 中村孝男さん
制作: 来住野正雄さん

創立75年の劇団が「今」を生きる子どもたちに贈る作品

中村さん「ひとみ座は創立75年ですが、新作を作るときは常に「今の子どもたちに何を届けるか?」を意識してテーマを選んでいきます。「銭天堂」は、店主の紅子の売るアイテムが、使う人の心次第で悪運にも幸運にもなる。楽しい作品ですが、ポップなだけで終わらないのが魅力です。原作の3つのエピソードを絡めたオリジナル脚本を作りました」

原作の魅力を引き出す、生の舞台ならではのファンタジー

来住野さん「紅子とそのライバルであるよどみのビジュアルは、原作のイメージを大切に再現しています。紅子の人形は迫力ある大きさなので皆さん驚かれます。駄菓子屋の店構えはデザイナーの渾身作。上演後に子どもたちが舞台に駆け寄って、知っているアイテムが並んでいるか探しているのも嬉しいですね」
中村さん「鍵となるアイテムが小さいので、印象付ける見せ方の表現にこだわりました。人形は表情を変

えられませんかから、気持ちの変化を観客に届けるために、使い手の演技で表情を表しています。「銭天堂」らしいちよつと怖いドキドキを味わってもらえたらと思います」
来住野さん「たい焼きが宙を泳ぐ、招き猫が動く、本物の人間が出てくるなど、舞台ならではの楽しい演出を用意しています」

余白から想像力を働かせて自分だけの感情を手に入れる

中村さん「人形劇の面白さは、使い手が作る表情を観客が受け取って自分の内側に感情を作ること。自分が入り込んで思考し、見えない部分を膨らませて補完する楽しみがあります。人形劇「銭天堂」でも、小さな社会のなかで一生懸命生きていく子どもたちが、チャンスをもつにするのは自分の力だと気付くきっかけになれば嬉しいです」
来住野さん「人形劇は人の手で演じるからこそそのアナログの良さがあります。一緒に見る人と空間を共有でき、親子で見ると友達と見るかでも印象が違ってくるので、ぜひそれぞれに楽しんでください」

◀ 公演の詳細はP.8をチェック!